

会長のごあいさつ

2014年度を迎えて

会長 佐藤 旺

殊の他寒かった冬が終わり、各地からさくらの開花のたよりを耳にする季節となりました。2014年度を迎え、皆様に一言ごあいさつを申し上げます。

昨年度は、4月に公益社団法人の認定をいただき、また、秋10月には東京国体の成功という素晴らしい結果を残すことができました。これらはひとえに、これまで都岳連の礎を築き、様々な事業の展開にご尽力されてきた諸先輩方、また、役員をはじめ、加盟団体、個人会員の皆様のお陰であります。ありがとうございました。

さて、本年度は、既に正会員の皆様にお送りした予算書と事業計画書のとおり、安全登山教室等の公益事業を一層充実させ当岳連の社会的な使命を果たして参ります。また、都市再開発による事務所移転という重要な案件の解決に取り組みます。



これまで家主様のご厚意により、東京駅から徒歩約10分のこれ以上はないという立地条件で、今の事務所をお借りしてきました。現在、事務所移転特別委員会を設置し、新事務所を探しているところです。移転先が決まりましたら理事会決議の後、ホームページや都岳連通信等で皆様にもお知らせいたします。

さて、ここ数年来、若い世代の登山者を見かけることが多くなりました。そのほとんどが未組織の登山者ということです。山岳会などで登山に必要な技術を学んだり、山の情報を得たりするより、組織に縛られず好きな時に好きなスタイルで山を楽しむということのようです。

時代とともに登山のあり方が変わるのは当然かもしれません。ただ、やはり基本的な登山技術や、山の事故を防ぎ、また、万が一事故に遭遇した時の対応のスキルなど、最低限のことは身につけた上で山に行って欲しい、そう願うのは私だけでしょうか。

公益社団法人としての使命ということもあります、このような新しい登山者の状況に対応することも考えなければならないと思うものです。

なお、わたくし共は、加盟団体の登山技術の向上のための講習会に講師を派遣する事業も行っておりますので是非ご活用ください。

また、登山関係者の念願だった「山の日」が、平成28年から祝日として制定される運びとなりました。この日をどのように祝うか、都岳連としても日山協など山岳関係団体と連携し、また、皆様のお知恵を拝借しながら検討してまいりたいと思っております。

最後になりますが、皆様には改めて今年度の都岳連の運営や事業に対するご支援をお願いし、年度始めのごあいさつとさせていただきます。